

目次

JALSG25 周年記念国際シンポジウム：シンポジウムの内容紹介

施設紹介：札幌北楡病院

会議予定、新規プロトコール紹介

JALSG25 周年記念国際シンポジウム

平成24年6月23日(土)、24日(日)に、東京国際フォーラムにて、JALSG25周年記念国際シンポジウムが開催されました。



Opening Remarks

Tomoki Naoe (Nagoya University Graduate School of Medicine)

25周年記念シンポに出席して下さってありがとうございます。特にNPO支援機構の大野先生と北村記念血液疾患研究基金からのサポートに感謝します。JALSGでは、10周年と20周年の記念シンポジウムを行いました。この機会に、白血病の分野での情報交換を深め、意見交換を行うことができればと思います。



Session I : Chronic Myeloid Leukemia

Chairpersons: Kazunori Ohnishi & Koichi Miyamura

Phase III randomized study of imatinib therapy in chronic phase chronic myeloid leukemia comparing standard dose-escalation with progressive dose-escalation (JALSG CML207study)

Koichi Miyamura (Japanese Red Cross Nagoya First Hospital)



JALSG の過去の CML202 研究のレビューをして、CML207 の概要を説明した。2007 年 6 月から 2011 年までの間に 253 名の患者さんが登録された。ELN の基準で増量する A 群と Suboptimal にて増量する B 群で比較された。増量群でありながら、増量されていないケースが見られた。投与量は B 群で増えており、MMR 率はやや高かった。



Discontinuation of TKI therapy in CML

Delphine Rea (Saint-Louis University Hospital)

CML の現状の治療をレビューして、妊娠で投与を中止した患者さんで再発したことを示された。STIM 研究に関して説明して、39%が2-3年のフォローでも再発していないことが示された。Sokal score が低く、5年以上の治療歴がある症例では、68%が再発していなかった。STIM2 研究に関して方針が述べられた。2nd TKI を用いた臨床研究の解析が説明された。CML LSC の研究が紹介された。



Characterization of CML stem cells

Itaru Matsumura (Kinki University Faculty of Medicine)

Single Cell PCR 法を用いた CML stem cell の解析結果が発表され、CD120,225,294 が残存 CML stem cell のマーカーになる可能性と新たな治療標的になる可能性が示された。最後に、CML 治療に向けて、CMR 達成をニロチニブとダサチニブで比較する現在実施中の JALSG CML212 研究が紹介された。



Session II : Acute Lymphoblastic Leukemia

Chairpersons: Jin Takeuchi & Yukio Kobayashi

ALL in adults: the GRAALL experience

Francoise Huguet (University Hospital of Toulouse)

ヨーロッパの ALL 臨床研究が紹介された。Ph negative ALL のリスクファクターに言及し、染色体、遺伝子異常と予後の関係が示された。AYA 症例では、小児科プロトコルの有用性が示された。GRAALL プロトコルでは、次第に投与量が小児科プロトコルにあわせて増えていったことが示された。L-asparaginase に関して検討されたことが示された。GRAALL05 では、5yr-OS は SR、HR では 70%,50% であった。Ph+ALL では、過去の臨床研究の比較が行われ HSCT の意味が検討された。



Four prospective multicenter clinical trials on behalf of adult ALL working party in Korean society of hematology

Young-Don Joo (Haeundae Paik Hospital, Inje University)

韓国における ALL の多施設共同研究の結果が紹介された。Daunorubicin の増量を濃なったプロトコルで、CR 率 88%、3yr-OS は 45% であり、tolerable であることが示された。Ph+ALL では、nilotinib+chemo にて 91 例の中間データが示された。再発 ALL に対して、CODOX-M/IVAC レジメンが示された。再寛解導入率は約 30% であった。



Allogeneic stem cell transplantation for adults with philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia in the era of tyrosine kinase inhibitors

Seok Lee (The Catholic University of Korea)

Ph+ALL の臨床研究のまとめを紹介された。MRD kinetics の点から詳細なデータが紹介された。Dasatinib+chemo レジメン (dasatinib と CH は同時に入らない) にて 40 例の治療を行い詳細な MRD フォローを行った。



History and future view of JALSG studies in ALL

Kiyotoshi Imai (Sapporo Hokuyu Hospital)

JALSG ALL 研究をレビューして、予後因子の解析を紹介した。Ph+ALL202 に関して詳細な分析を紹介した。年齢が 15-55 の若い症例での治療法改善の必要性が述べられた。最後に次期 ALL の治療戦略が紹介された。



Feasibility and safety of pediatric-type therapy for Acute Lymphoblastic Leukemia (ALL) in adolescences and young adults: Interim analysis of JALSG ALL202-U

Fumihiko Hayakawa (Nagoya University Hospital)

JALSG ALL202-U の中間報告がなされた。AYA 症例では、L-asparaginase の投与量が多くなっていることが示された。CR 率は、94% で有害事象としては感染症と肝障害が増えていた。5yr-OS は、ALL97 より優れていた。



June 24(Sun)

Session III : Acute Myeloid Leukemia

Chairpersons: Noriko Usui & Hiroyuki Fujita

Prognostic analysis of AML patients registered to the JALSG AML201 study according to

the genetic risk classification

Hitoshi Kiyoi (Nagoya University Graduate School of Medicine)

JALSG AML201 研究での分子生物学的異常と予後の関係が報告された。197 例を ELN の新リスク分類に当てはめたところ、(Favorable, Int-1, Int-2, Adverse) に、それぞれ

(46.7%, 17.7%, 20.8%, 14.7%) が分類され、Int-1 が OS と DFS

ともにもっとも悪い成績であった。Int-1 には FLT3-ITD 変異例が 60% 含まれているためと考えられた。JALSG AML201 検体を用いた分析では、CBF-AML において、KIT mutation は OS, DFS ともに有意な影響を与えていなかった。



Molecular basis for treatment decisions in adult acute myeloid leukemia

Arnold Ganser (Hannover Medical School, Germany)

分子生物学的異常に基づく AML の治療戦略が紹介された。

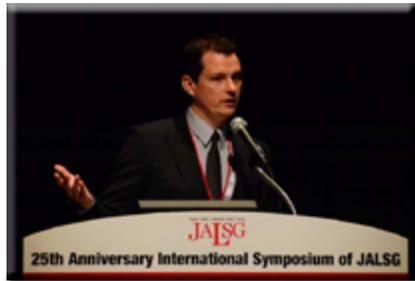
正常核型 (CN-)AML で FLT3 変異 (-)・NPM1 変異 (+) や CEBPA ホモ変異には CR1 での同種移植適応はもはやなくなった。AMLSCG0704 研究で ATRA 併用による治療効果の相乗効果が示された。CN-AML において ATRA の有用性が高いのは、Meningioma 1(MN1) の発現が低い群であった。



New treatment modalities for AML in the elderly

Bruno C. Medeiros (Stanford Cancer Center, CA,USA)

高齢者 AML に関して現状が紹介された。導入時の死亡は、年齢、PS の悪いほど高いことが示された。早期死亡を予測する計算式が紹介され実際の臨床で示されていることが説明された。Alternative therapy として、GO, Clofarabine, azacitidine などが紹介された。



Session IV : Acute Promyelocytic Leukemia

Chairpersons: Norio Asou & Nobuhiko Emi

Current Clinical Trial of the Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG) for Newly Diagnosed APL

Katsuji Shinagawa (Okayama University Graduate School of Medicine)

JALSG APL 臨床研究のまとめが紹介された。APL92 より ATRA が導入され OS が改善するとともに初診時 WBC>10000 群にて予後が悪いことが示された。



APL97 では、多剤併用化学療法による維持療法は効果がなく、また早期の出血、60 歳以上の高齢は予後不良因子であった。日本で開発された Am80 が紹介され、APL204 にて ATRA と維持療法の比較第Ⅲ相試験が実施され、中間解析では 5ys-OS, EFS は、86%, 72% であった。最後に APL212 における亜ヒ酸治療時代への展望が紹介された。



Targeted therapy: the new lease on life for leukemia

Sai-Juan CHEN (Rui-Jin Hospital affiliated to Shanghai Jiao Tong University School of Medicine)



APL の治療の歴史がレビューされた。ATO のメカニズムが検討された。ATRA/ATO 併用療法の基礎的な効果が示され、臨床研究のデータが示された。5ys-OS が 90% を超える高いものであった。治療後長期生存している患者のデータが紹介された。CML stem cell を減らすために、イマチニブと ATO 併用療法の基礎研究が示された。イマチニブ



耐性の患者にすでに 8 名の患者が登録されている。



Closing remarks

Yasushi Miyazaki (Nagasaki University)

講演者の先生、参加者の貴重な講演、活発な登録を感謝します。アジアでの臨床研究が活性化することを希望します。JALSG 自体が、若い参加者を含めてよりよい方向に変化していくことを願いこのシンポジウムを閉会します。



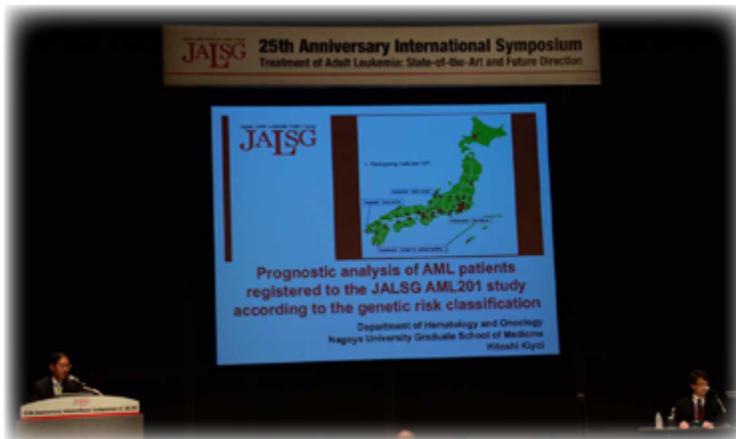
懇親会

6月23日の会の終了後に懇親会が催されました。

大野先生の乾杯の音頭で始まり和やかな雰囲気の中で、歓談や笑い声が響きました。海外からの講演者を中心に新しい臨床研究の夢やアイデアを語り合われました。



今回の国際シンポジウムの受付、アナウンスをしていただいた JALSG 事務局の牧野さん、門畑さん、国立がん研究センターの竹田さん、大迫さん、長崎大学の藤井さん、名古屋大学の小西さん、吉良さん、岡本さん、ありがとうございました。



施設紹介

札幌北榆病院 血液内科



札幌北榆病院は、1985年1月に開設され、高度先進医療を日常医療へ還元することを病院の理念として人工臓器移植研究所が併設されました。開設1年間で同種骨髄移植の施行を可能とした笠井正晴先生

は2010年4月に名誉院長となられ、2012年4月から前北海道大学大学院血液内科教授の今村雅寛先生が顧問として着任されました。現在血液内科では、血液専門医6名を含めて、道内だけではなく全国からの血液専門医志望の後期研修医を合わせて13名が診療に携わっています。



小林 診療統括部長



木山善雄内科部長



小笠原細胞療法センター長

病院開設から20年間で、血液疾患では、急性骨髄性白血病417名、急性リンパ性白血病134名、骨髄異形成症候群176名、慢性骨髄性白血病167名、ホジキンリンパ腫76名、非ホジキンリンパ腫601名、多発性骨髄腫192名などが入院治療を受けています。造血幹細胞移植は、1986年から2011年までに実施された移植件数は827例で、最近では年間で40ないし50例施行しています。札幌市内だけではなく、道内、時には道外から血液疾患の症例の紹介を受けています。231床の病院ですが、血液内科の病床数は100を超えています。



皆内 JALSG 新副運営委員

病床はすべて個室でしかも差額ベッド代は無料という前代未聞の偉業を成し遂げています。無菌治療室は30床あり、嚴重な感染対策を行っています。また、免疫細胞治療センターも併設され、病院開設以来の理念が受け継がれています。



平野血液内科部長



中田血液内科部長



太田血液内科部長

札幌市は、人口190万人を超え全国5番目の都市になりました。石狩平野の南西部に位置する札幌市は、夏はさわやかな暖かさで過ごしやすく、冬は積雪寒冷のため、四季の移り変わりを楽しむことができる街です。札幌のおすすめスポットは、大通公園、赤れんが（北海道庁旧本庁舎）、札幌時計台、札幌羊ヶ丘展望台、大倉山展望台、札幌テレビ塔、JRタワー展望台、北海道大学、モエレ沼公園、白い恋人パークとすすきのです。ラーメン、ジンギスカン、すし、海鮮などの食事もおすすめです。当院血液内科での後期研修に興味をもたれた先生は是非ご連絡ください。



今井血液内科主任部長



今村雅寛顧問



会議予定

- 2013/2/23(土) 第17回 JALSG 研修会
11時～
於：グランドプリンスホテル新高輪（品川）
- 2012/12/15(土) 平成24年度第2回直江班・小林班合同班会議
於：名古屋大学
- 2012/10/18(木) 第45回 JALSG 定例会議・第57回 JALSG 運営委員会
於：国立京都国際会館



新規スタート プロトコール

JALSG APL212

急性前骨髄球性白血病に対する亜ヒ酸、GOを用いた寛解後治療 - 第II相臨床試験

16歳以上65歳未満の未治療急性前骨髄球性白血病 (APL) の寛解例に対して、地固め療法として亜ヒ酸 (ATO)、ゲムツズマブ・オゾガミシン (GO) を用いた治療を行う。これを、地固め療法が化学療法で施行された過去の JALSG APL プロトコールの試験結果との比較を行う第II相臨床試験。

JALSG CML212

初発慢性期の成人慢性骨髄性白血病に対するニロチニブとダサチニブの分子遺伝学的完全寛解達成率の多施設共同前方視的ランダム化比較試験

初発慢性期の慢性骨髄性白血病 (CML-CP) に対して治癒に向けてのマイルストーンとなる国際標準法による分子遺伝学的完全寛解 (complete molecular response, CMR) の達成率をニロチニブとダサチニブで前方視的第三相ランダム化試験にて比較する。また、引き続き実施予定の薬剤中止試験への登録可能症例を蓄積する。

編集後記

今回は、JALSG25周年記念国際シンポジウム特集号となりました。たくさんの写真を名古屋大学の富田先生にとっ
ていただいてその中から記事用を選ぶのに苦勞をしました。出席できなかった方も雰囲気味わってもらえればと
思います。今後とも御協力をお願いします。

教育・広報委員長 恵美宣彦

成人白血病治療共同研究グループ (JALSG)

事務局：〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1 TEL/FAX:053-433-4993 mail:jalsgsc@hama-med.ac.jp

発行責任者：直江知樹 (代表)

編集責任：教育・広報委員会

発行日：2012・8・1

